水坤寄稿

私の原点

株式会社 西日本技術コンサルタント／顧問　**吉川　巧**

■1. はじめに

時は、バブル景気真っ盛りの1989年でした。「マハラジャのお立ち台」の時代です。そんな時に「水コン」の世界に転職しました。

「水道の仕事ってあるの？」「どんな仕事？」が周りの率直な感想でした。

当時、水道の普及率は94％位で、ほぼ全戸普及と言っても過言ではない状況です。私は、それまで金融関係の仕事をしていたのですが、「社会人７年目の浮気心」でしょか？随分思い切ったものです。

■2. 山間部での業務

そんな私ですが、先輩からの指導を受けながら、新鮮な毎日を長時間残業も厭わず、忙しく過ごしていたころです。

三重県の中西部に位置する山間部（現松阪市：旧飯南町）において、簡易水道の統合整備と未普及地域の解消事業の業務に携わりました。施設整備に10年近く要した事業でした。

具体的には、詳細設計とともに現場の重点監理を任されました。時に自身の力不足を痛感させられ、一方で、大いに成長させてくれた業務でした。

ここでは、現場工事が動き出し、現場の重点監理に携わった時の経験をご紹介します。最初は、苦い経験から。

（1）苦い経験その１　「散った砕石」

配水管の布設工事が行われていました。開削工事です。埋設後はアスファルト合材による仮復旧を指示していたのですが、施工業者は、砕石による埋戻しにとどめ、その日の工事を終了したようです。

秋の山間部は陽が落ちるのも早く、夕闇が迫るなか、地元にお住いのＡさんがバイクに乗って帰宅されようとしていました。埋め戻した砕石の一部がアスファルト舗装面に散っていたのでしょう。バイクのタイヤが滑り、Ａさんはハンドルを取られて転倒してしまいました。

施工業者によると、一定延長の施工の後、アスファルト合材による仮復旧を予定していたようです。当然のことながら、即日の仮復旧を指示しました。

幸いＡさんは大きな怪我に至らなかったのですが、申し訳ない思いで一杯でした。そして、苦い経験です。

（2）苦い経験その２　「冷えた麦茶」

残暑厳しい中、やはり配水管の布設工事中に事故は発生しました。人家の前を開削工事中でした。配管工たちの作業服は背中に張り付き、額から落ちる汗は舗装の色を変えていました。

年配のＢさんが、「暑い中、ご苦労様。」と冷えた麦茶をお盆にのせ、門の外まで出てこられました。

「Ｂさん、危ないよ。」と配管工は、Ｂさんに声をかけました。

その時でした。Ｂさんは、仮置きされた掘削土に足を取られ、その場に転倒。救急車のサイレンが静かな山間に響きました。

悔しい思いが残っております。そして、苦い経験です。

■3.「とっておきの経験」

ここまでは、苦い経験ばかりですが、実は「とっておきの経験」もすることができました。

それは、竣工検査に立ち会っていた時のことです。気が付くと、我々のそばにCさんが立っておられ、声をかけられました。

「ちょっと家まで来てよ。」一瞬「トラブル？」の言葉が頭をよぎりました。失礼ですが、地元の方からの「お声かけ」は概してこの種のものが常です。

検査もほどほどに、緊張しながらCさんの後についていきました。家に到着すると、さらに、台所まで案内されました。

Cさんは、コップを片手に水道の蛇口をひねりました。コップには、普通に水が注がれました。

「濁り？異物か？」と目を凝らしました。Cさんの顔を覗くと何と満面の笑みです。Cさん曰く「これ見て、こんなに元気に水が出る。」「コップから水が溢れんばかりの勢いやろ。」

私の頭の中は「？？？」さらにCさんは、「ありがとう。嬉しいわ。」

これまでの事情を聴くと、コップに注がれる水は糸を引くような状態だったようです。また、まとまった雨が降った時などには、浴槽の水が薄茶色に濁ることも珍しくなかったそうです。

さらに、台風が通過した後などは、水源となっていた谷水の取水口や導水しているポリパイプの修理が必要になることも多々あり、ご高齢者が増えつつあったCさんの周辺では大変な重労働を強いられていたようです。

愚鈍な私の頭も理解できました。

Cさんの家を後にした時、そこまで来ている春の陽の光が眩かったことを記憶しています。同僚が「今年は、花見に行きたいね。」と言いました。

■4. おわりに

このCさんとの出会いは、社会人になってから私の中でくすぶり続けていた「仕事」への違和感を払拭してくれた瞬間でした。目の前の霧が晴れて、視界が開けた感じでしょうか。

同時に、「水コン」に転職する時に「どんな仕事？」と声をかけてくれた方たちへの答えにもなりました。「人様に喜んでいただける仕事」これが、私の答えです。

そして、この「とっておきの経験」こそ、「水コン」で働く私の「原点」となりました。

お陰様で、仕事で煮詰まった時にもCさんの「笑顔」を思い出しながら、30年近く勤め上げることができました。

これからの若い人たちにも、様々な経験や笑顔の人との出会いがあることを願ってやみません。

余談になりますが、この「原点」の地は、天然わさびが収穫でき、平成11年度日本棚田百選「深野だんだん田」に認定された場所でもあります。伊勢神宮にお越しの折は、足を延ばしてみてください。近くには、中央構造線の「月出露頭」も見ることができます。松阪牛も堪能していただけます。おいしいですよ。

なんだか三重県の観光案内？になりそうですが、他にも見所満載ですので是非、お越しください。

写真－1　「深野だんだん田：（C）伊勢志摩観光コンベンション機構」